『カンダハール』の
モフセン・マフマルバフ監督最新作

アフガン・アルファベット

AFGHAN ALPHABET

子どもたちに教育を! 未来を!

監督・脚本・撮影:モフセン・マフマルバフ
録音:モジタバ・ミルタフマスプ/音楽:モハマド・レザ・ダルビシ/監督助手:サミラ・マフマルバフ、ハナ・マフマルバフ
スチール:マルズィエ・メシュキニ/海外担当:モハンマド・レザ・サフィリ/製作:マフマルバフ・フィルムハウス
2002年/イラン/カラー/モノラル/スタンダード/46分/35mm(デジタル・ビデオ撮影)
日本語&英語字幕付き/配給:オフィスサンマルサン

子どもたちの目の輝きとけなげな心が、感動を呼ぶ秀作!!

●『カンダハール』のマフマルバフ監督が再びアフガン国境の難民キャンプを訪れた

タリバン政権下のアフガニスタンに生きる人々を描き、9・11の米国同時多発テロ以来、一躍世界的な注目を浴びた映画『カンダハール』。
2001年10月、米国の爆撃がエスカレートする中、マフマルバフは『カンダハール』のロケ地であるアフガン国境の町ザーヘダーンの難民キャンプを再び訪れた。アフガニスタンの未来を憂い、「教育」こそがこの国の未来を切り開くものとの確信から、イラン国内のアフガン難民の子どもたちへの教育の必要性をハタミ・イラン大統領に説いたマフマルバフは、イラン国内の難民キャンプの子どもたちの教育実態をカメラに収めることにしたのだ。キャンプの粗末な教室で、目を輝かせて学ぶ子どもたちと、同じ難民でも身分証のない子どもたちは教育を受けることができないという現実。そして、ある女子教室では決してブルカを脱がない生徒に出会うのだった。彼女は、他人に素顔を見せることは罪だと頑なに拒むが、カメラは彼女にそうさせる本当の理由に迫っていく…。

『カンダハール』の成功から一転、マフマルバフがACEM（アフガン子ども教育運動）というNGOを主催し、アフガニスタン国内にまで教育運動の輪を広げていく契機となった迫真のドキュメンタリーである。
わずか46分のドキュメンタリーという形式をとりながらも、マフマルバフの他の劇映画同様、抜群に見事な話法で構成され、彼の最も情感溢れる作品となった。それにしても登場する子どもたちの澄んだ目の何と美しいことか!!

●マフマルバフ監督の言葉

アフガニスタンではタリバンは一つの政治政権だったのではなく、依然として一つの文化なのです。爆撃によって政治政権を壊滅させることはできても、文化を変えることはできません。ロケット弾によってブルカの中に閉じ込められた女性を解放することはできないのです。アフガニスタンの少女たちには教育が必要です。彼女は自分が何も知らないことを知りません。彼女は閉じ込められていますが、自分が貧困、無知、偏見、男性優越主義そして迷信の囚人であることを知りません。タリバン以前でさえも、アフガニスタンでは女性の95%、男性の80%が学校に通う機会がなかったのです。この映画はアフガニスタンの文化の問題を解くことのできる失われた鍵を探しています。

監督・脚本・撮影：モフセン・マフマルバフ
録音：モジタバ・ミルタフマスブ／音楽：モハマド・レザ・ダルビシ
監督助手：サミラ・マフマルバフ、ハナ・マフマルバフ／製作：マフマルバフ・フィルムハウス
2002年／イラン／カラー／モノラル／スタンダード／46分／35mm（デジタル・ビデオ撮影）
日本語字幕：石田泰子、字幕監修：ショーレ・ゴルパリアン／宣伝：ムヴィオラ、宣伝協力：チャンネルアジア
日本語&英語字幕付き／配給：オフィスサンマルサン 303

<ACEMアフガン子ども教育運動>をマフマルバフ監督が提唱しています。
◆イラン国内のアフガン難民キャンプやアフガニスタン国内の子どもたちへの「読み書き」教育を推進するNGO活動です。上映期間中、ACEM支援募金箱を設置します。

10月19日(土)よりモーニングショー!!【11/1(金)迄】

連日　朝10:15より1回上映（終11:05）

当日料金　一般・大学生・高校生　１２００円
シニア（60歳以上）・中学生・小人　１０００円
（前売券の販売はありません）
★入場料金の１０％はＡＣＥＭアフガン子ども教育運動に寄付されます。

梅田スカイビル（空中庭園）タワーイースト4F
梅田ガーデンシネマ
06-6440-5977　www.cineplex.co.jp